

献辞

長年にわたり関西大学商学部、および商学会のために尽くされた高堂俊彌先生は、1998年3月17日めでたく古稀の寿を迎えられることとなります。

商都大阪に生を受けられた先生は、旧制京都府立桃山中学校、関西大学専門部商科を経て、関西大学経済学部、同大学大学院に学ばれた後、1952年11月本商学部助手として任用され、専任講師、助教授を経て1969年4月教授に昇進、現在に至っております。その間、教育、研究の面はいうまでもなく、大学および学部の運営に関しても、多大の貢献をされてこられました。学園が揺れていた1969年10月から1年間、商学部長代行代理、商学部長代行、学長代行代理などを務められ、学問の府を取り戻すために尽力されました。その後も、1975年10月から1年間は商学部長、1976年10月から3年間は就職部長、1980年からは4年間にわたり学校法人関西大学評議員を務められるなど、大学全体に関わる要職を歴任されております。

本商学部では、「経営労務論」を長年にわたり担当され、実業界あるいは学界に数多の俊英を送り出されてこられました。労務理論を中心に企業経営に関する研鑽の成果は、幾多の著書論文をもって世に問われ、斯学での高い評価を受けるとともに、1990年関西大学より商学博士の学位を受けておられます。また、日本経営学会理事、労務理論学会理事、副会長など学会の要職を歴任されて、斯学の発展に大いに寄与されてこられました。

先生は、柔らかい物腰の中にも筋の通った英国型紳士の雰囲気を漂わせ、常にバランスのとれた判断をもって、我々に範を示していただきました。その先生も、1998年3月末をもって関西大学を定年退職されることとなりますが、今後ともますますご健勝にして、商学部、商学会の発展のために、ご指導、ご鞭撻いただくよう願っております。私たちは、ここに先生の古稀を記念して『商学論集』の特集号を刊行し、足跡を回顧いたしますとともに、心からの感謝の意を表します。

1997年12月10日

商学部長 永 沼 博 道